


 愛知 13 区  
 碧南・刈谷・安城・知立・高浜

**前衆議院議員**

タイトル

国会軽視と国民生活後回し

# おおにし健介

大型連休も終わり、7月17日が会期末となっている特別会もいよいよ後半戦となります。ここまでの国会を外野から見ていて、総選挙の結果、衆議院で圧倒的多数を握る自民党が数の力にモノを言わせ、高市総理が国会に出てこない「国会軽視」や高市印の政策を優先し「国民生活を後回し」にする姿勢が随所に表われてきているように思います。

## 1. 国会軽視

予算審議においても、総理出席の集中審議の機会的大幅に減らされましたが、ゴールデンウィークの自然休会が明けた時点では、党首討論も一度も開かれませんでした。総選挙前には、少数与党の状態にあったため、昨年4月、毎年1月召集の通常国会では、当初予算成立後は、毎月、党首討論を1回ずつ開くと申し合わせていました。高市総理には、国会出席を嫌うのではなく、積極的に国会に出てきていただきたいと思えます。

また、国会での長年の議論の積み重ねを通じて形成されてきた「防衛装備移転三原則」とその運用指針を、国会での十分な審議もなく、閣議決定や国家安全保障会議（NSC）のみで、殺傷能力のある兵器の輸出禁止をあっさり方針転換したことも国会軽視とも言えます。

さらに、再審制度を見直す刑事訴訟法改正案を審議する自民党の法務部会・司法制度調査会合同会議では、「検察官抗告の禁止」をめぐる議論が紛糾し、未だ法案提出の目途が立たない状態ですが、与党による事前審査で重要な論点について事実上内容を確定してしまうことになれば、国会での議論は形骸化してしまいます。少数与党の国会で強調された「熟議と公開」の国会審議はいったいどこに行ってしまったのでしょうか。



## 2. 国民生活後回し

総選挙で圧勝した高市内閣は、白紙委任を受けたかのように、殺傷能力のある武器輸出の解禁や国家情報局の設置など、いわゆる「高市印」の政策を前のめりで進めています。その陰で国民生活は後回しになっているのではないでしょうか。


ホルムズ海峡の事実上の封鎖の影響で、原油価格高騰によるエネルギー価格の上昇やナフサ由来の製品の不足と価格上昇は、国民生活の様々なところに波及し、物価高は国民生活を圧迫しています。一方で、総選挙で物価高対策として訴えた、高市総理が「悲願」とまで言った食料品の消費税をゼロにするという公約の実行は遅々として進みません。レジシステムの変更に時間がかかることは、選挙の時から分かっていたことと言いつにはなりません。

また、高市総理は、「現時点では補正予算の編成の必要はない」と言っていますが、そんな悠長なことを言っている場合でしょうか。ガソリン補助金は、現行水準の補助を続けていけば6月末には枯渇します。また、これから猛暑・酷暑の夏がやってきますが、ホルムズ海峡封鎖の影響による原油やLNG価格の高騰が電気・ガス料金に反映されるのはこれからです。電気・ガス料金に対する補助も必要となります。米国がイスラエルと共同でイランへの大規模攻撃を実施したのは2月28日で、4月9日に成立した当初予算には、その影響は折り込まれていません。予備費が1兆円あると言っても、地震や自然災害などに備えて残しておかなければならないので、予備費だけでは足りません。積極財政を掲げるなら、当然、補正予算を国会に提出すべきです。国民生活こそ最優先です。

総選挙で、「日本列島を強く豊かに」と訴えた高市総理ですが、国は強くなっても、国民の暮らしが豊かにならないと意味がありません。

野党には、委縮することなく、もっと頑張ってもらいたいと思います。私も、今、国会にいない悔しさをバネに、コツコツ地元を歩きたいと思います。



voicy 始めました！  voicy

最近、voicy という音声プラットフォームで音声配信を始めました。「オニケンの永田町ウオッチ」というタイトルで、毎週、月曜日と火曜日の朝7時に更新しています。https://voicy.jp/channel/995314 から、私がパーソナリティーのラジオ番組のような感覚でお聞きいただけます。ぜひ、聴いてみて下さい

### Profile



▶昭和46年4月13日生まれ

▶京都大学 法学部卒

▶国会職員、在アメリカ大使館二等書記官、衆議院議員 馬淵澄夫政策担当秘書を経て、平成21年第45回衆議院議員総選挙で初当選以来、連続6期当選するも、令和8年第51回衆議院議員総選挙にて惜敗

▶党務では、選対委員長、青年局長、税制調査会長等を歴任。

▶国会では、予算委員会ほか、厚生労働委員会、消費者特別委員会、経済産業委員等にて活躍

▶中学生、高校生2人の男の子のパパ  
ニックネームは「オニケン」